

官制中ノ字句ニ關シ質疑アリ廣瀨法制局長官ヨ  
リ夫々答辯アリ  
右終テ原委員長ハ質問終了ト認メ國務大臣及説  
明員ノ退席ヲ求ム

(國務大臣及説明員退席)

其ヨリ委員協議ノ結果本案ハ此ノ儘可決セラレ然ル  
ベキ旨全會一致ヲ以テ之ヲ議決シ審査報告書ノ  
作成ハ之ヲ委員長ニ一任スルコトニ決ス  
仍テ原委員長ハ閉會ヲ宣ス

(午後五時三十分閉會)

關東局ニ在滿教務部ヲ設置スル等ノ件外一件審査  
委員會

昭和十五年三月二十九日(金曜日)本院事務  
所ニ於テ開會

出席者

原 副議長

審査委員長

石井顧問官

審査委員

國務大臣

石塚 顧問官  
 清水 顧問官  
 南 顧問官  
 奈良 顧問官  
 荒木 顧問官  
 二上 顧問官  
 米内内閣總理大臣  
 有田 外務大臣  
 畑 陸軍大臣

説明員

廣瀨法制局長官  
 入江法制局參事官  
 井手法制局參事官  
 荒川對滿事務局次長  
 關對滿事務局事務官  
 大津關東局總長  
 菊池關東局事務官  
 堀内外務省東亞局長  
 三谷外務省條約局長

根道外務書記官  
松平外務事務官  
粕谷外務事務官  
今吉在滿洲國大使館教務事務官  
成田在滿洲國大使館教務事務官  
堀江書記官長  
諸橋書記官  
高辻書記官

(午後一時三十分開會)

石井委員長開會ヲ宣ス

米内内閣總理大臣ヨリ本案ノ趣旨ニ付簡單ナル説明アリ畑對滿事務局總裁之ヲ敷衍シ更ニ荒川對滿事務局次長ヨリ補足的説明アリ

南顧問官ヨリ政府ハ汎ク人民ニ對シ節約ヲ獎勵シ貯蓄ヲ勸誘スルモ一方政府ノ方面ニ於テハ増員ニ次グニ増員ヲ以テシ政費節約ノ實績ヲ認ムルニ難シ明年度豫算ノ執行ニ當リテハ政府ハ率先節約ノ範ヲ示スラ當然ト思料スルモ其ノ決意如

何尚本案官制通過、後之ガ實施ニ當リテモ増員ノ抑制等經費ノ節約ニ付考慮ヲ拂フカトノ質問アリ原副議長之ニ關聯シ質問ヲ爲ス米内内閣總理大臣ヨリ去ル第七十五回帝國議會ニ於ケル諸税法案ノ修正ニ因リ生ジタル約六千數百萬圓ノ歲入缺陷ヲ補填スルノ要アルハ勿論進テ現下ノ時局拾收ノ爲メ財政ノ緊縮政費ノ節約ヲ爲スノ必要アルニ由リ政府ニ於テハ今後部局ノ新設又職員ノ新置増置ヲ含ム官制ノ制定改正ニ當リテハ既ニ本年度歲出豫算ニ計上セラレタルモノト雖更ニ

檢討ヲ加ヘ努メテ經費ノ膨脹ヲ抑制スベク本件勅令ノ實施ニ際シテモ同様ノ趣旨ニ鑑ミ適當ナル考慮ヲ拂フベキ旨ノ答辯アリ石塚顧問官ヨリ本案ノ機構改正、所以ニ付質問アリ南、石井兩顧問官ヨリ關聯質問アリ畑對滿事務局總裁及補足的ニ廣瀨法制局長官ヨリ神社及教育ノ行政事務ハ内政事務ナルガ故ニ之ガ所管ヲ外交機關タル大使館ヨリ移シテ關東局ニ置キ而シテ同局ハ由來關東州ノ行政ヲ管理スルモノナルト又一面等シク邦人ノ教育ニ關シ關東州内及滿洲國內ノ別ニ依

リ機關ヲ併立セシムルハ不適當ナルニ由リ關東局  
官制ノ改正ニ依ラズ特別ノ勅令ヲ制定シ同局ニ部  
ヲ設ケントスルモノナル旨ノ説明アリ次テ同顧問官  
ヨリ在滿洲國ノ日本人、朝鮮人及滿洲人生徒ニ對ス  
ル教育方法及移植民事務ニ關スル拓務省ト對滿  
事務局トノ權限ノ調整方法ニ關シ質問アリ其ノ  
前段ニ關シ畑對滿事務局總裁ヨリ現在ハ各特殊  
ノ教育ヲ行ヒツツアルモ將來ハ之ヲ同一ニスル考ナ  
ル旨、其ノ後段ニ關シ荒川同局次長ヨリ移植民事  
務ニ專ラ拓務省ニテ取扱ヒ居レル旨ノ答辯アリ

清水顧問官ヨリ本案ノ官制ニ關シ第三條中上  
官ノ意義、第十二條ノ大使ノ命令ニ對スル外務  
大臣ノ取消權ノ有無、官制ノ施行期其ノ他ニ付質問  
アリ廣瀨法制局長官其ノ他説明員ヨリ上官トハ關  
東局總長及大使ヲ指稱シ、大使ノ命令取消權ハ外  
務大臣ニ在ラズシテ總理大臣之ヲ有シ本案官制ノ  
施行ハ四月早々ノ希望ニテ新年度開始ヨリ施行ニ  
至ル期間ノ現機構ニ所要ノ經費ハ政府部内ノ既定  
豫算中ヨリ案配スベキ旨等ノ答辯アリ  
南顧問官ヨリ滿洲國ニ於テ帝國が行フ邦人教育ノ

樞密院

限度、滿洲國ニ於ケル宗教行政ニ付帝國ニ留保、有  
無、滿洲拓殖會社ノ監督機關茲ニ本案官制中第十  
二條ノ命令及第十三條ノ判任官ノ進退ニ關シ質  
問アリ今吉在滿洲國大使館教務事務官ヨリ教  
育行政權ニ關スル日滿條約附屬協定第十五條第  
一項ハ日本國臣民タル朝鮮人ニ對スル規定ニシテ其ノ  
教育ハ兩國全權委員間了解事項第六ノ一ニ依リ初  
等教育ト限ラレタルモ其ノ他、日本國臣民ニ對シテ  
ハ小學校ヨリ大學ニ至ル迄ノ教育行政ヲ帝國ニ於  
テ行ヒ得ル旨、滿洲國ニ寺院多數ヲ存スルモ宗教ハ

自由トセララルルガ故ニ之ガ行政ニ付テハ帝國ニ留保  
セラレ居ラザル旨、廣瀨法制局長官ヨリ滿洲拓殖  
會社ノ第一次監督機關ハ日滿兩國間ノ條約ニ依リ  
設置セラレタル滿洲拓殖委員會ニシテ右委員會ノ  
監督ハ官制上ノ明文ナキモ拓務大臣ガ之ニ當ルモノ  
ト解スル旨、本案官制第十二條ノ命令ニハ罰則ヲ  
附スルコトヲ得ザル旨、第十三條ニ關シ關東局總長ニ  
判任官ノ進退ヲ專行セシメザルハ關東局ハ特別ノ官制ニ  
依ルモ尚大使館ノ一内局ニ過ギザルニ由ル旨又判任官以下  
ト規定セザルハ同部ニ待遇官吏ノ設置ナキガ故ナル旨ノ

樞密院

説明アリ

二上顧問官ヨリ神社行政權ニ關スル日滿條約第十  
四條中「日本國政府が其ノ神社ニ關スル行政ヲ行フ  
ト謂ヘル意味及本案官制第十二條ノ命令ノ人的  
適用範圍ニ付質問アリ廣瀨法制局長官、三谷外  
務省條約局長其ノ他説明員ヨリ第十四條ノ神社  
行政權ニ付テハ神社ニ關シ帝國ノ法令が當然滿洲  
國ニ行ハルルニ非ズレテ特ニ滿洲國ニ行ハレムル爲メ  
制定シタル法令ノミガ行ハルル旨、第十二條ノ命令  
ノ適用範圍ハ日本人ノミニ限ラルル旨、而シテ滿洲

國政府ハ同條約第十八條ノ規定ニ依リ日本國法  
令ノ適用ヲ援助スベキモノナル旨ノ答辯アリ  
石井委員長ハ右ヲ以テ質問終了ト認メ國務大臣  
及説明員ノ退席ヲ求ム

(國務大臣及説明員退席)

其ヨリ委員間ニ於テ意見交換ノ結果本案ハ此ノ  
儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ可決  
シ尚本委員會ニ於テ政費ノ節約ニ關シ米内内閣  
總理大臣ノ爲シタル言明ヲ特ニ審査報告書ニ明  
記スルコトニ決ス

仍于石井委員長ハ閉會ヲ宣ス  
(午後四時四十分閉會)

抽  
密  
院

文官分限令中改正ノ件第一回審査委員會

昭和十五年六月十九日(水曜日)本院事務所  
ニ於テ開會

出席者

審査委員長

原 副議長

審査委員

河合 顧問官

石井 顧問官